

いごいのみぎわ  
天路歷程 ジョン・パニヤン

第15話

2022年2月27日～3月5日 各家庭でのディボーション用テキスト

しかし宿舎にいた門衛は、その名を見張者と言ったが、【マコ 13:34】 基督者が立ち止まって引き返そうとする気配を見せたのを認めて、呼びかけて言った、君の気力はそんなに小さいのですか。ししを恐れなさるな。それらはつながれているのです。そこにおいてあるのは、信仰ある者はこれを試み、信仰なき者はこれを見破るためです。路の真中を歩けば、何の害も加えられないでしょう。

それから、彼はししを恐れて震えてはいたが、門番の指図によく注意を払って進んだ。ししのほえるのは聞こえたが、彼には何の害も加えなかった。そこで彼は手を叩いて進み、門衛のいる門の前で立った。それから基督者は門衛に言った、これはどういう家でしょう。今夜ここで泊まれますでしょうか。門衛は答えた、この家は丘の主によって建てられたもので、巡礼者たちの慰安と保護とのためです。門衛はまた彼がどこから来て、どこへ行くとお尋ねした。

**基督者** 私は滅亡の都からやって来ました者で、シオンの山へ行くところです。ところが日も沈んでしまいましたので、できれば今夜ここに泊めて頂きたいのですが。

**門衛** あなたのお名前は。

**基督者** 私の名は今では基督者ですが、初めは墮落者でした。セムの天幕に住むように神が勧められたヤペテの族の者です。【創 9:27】

**門衛** だが、どうしてこんなにおそく来るようになったのですか。日はもう沈んでしまったのに。

**基督者** われながら情ない話ですが、もし山腹にあるあずまやで眠りませんでしたら、もっと早くここに来れたでしょう。いや、それでも、もっとずっと早くここへ来たことでしょうか、眠っている間に証明書をなくして、そのまま丘の頂上に来てしまうというようなことがなかったら。それから探してみても見つかりませんので、しかたなく、心に悲しんで、眠った場所に戻りますと、そこで見つかりましたので、やっと参ったようなわけです。

**門衛** それでは、ここの娘さんたちの一人をお呼びしましょう。で、もしあなたのお話が気に入ったらこの家の規則に従って家族の方々に引き合わせるでしょう。

かくて門衛の見張者はベルを鳴らすと、その音につれて、家の戸口へ聡子（さとこ）という落ちついた美しい乙女が出て来て、何の御用ですかと聞いた。

門衛は答えた、この方は滅亡の都からシオンの山へ行く旅の方ですが、疲れて夜にもなったので、今晚ここに泊めてもらえまいかと尋ねられるのです。それで私はあなたをお呼びいたしましよと申しました。で、この方とお話しになった後、然るべきように、この家の規則に従って、なさってよいでしょう。

すると彼女は、どこから来て、どこへ行こうとしているかと彼に尋ねた。またど

ういうふうはこの道に入ったかと尋ねたので、彼は話した。それからまた道中で見たり、出会ったりしたことは何かと尋ねたので、それも話した。そして最後に名を尋ねたので、彼は言った、基督者と申します。お見受けしたところ、ここが巡礼者の慰安と保護とのために丘の主によって建てられたものようですから、なおさら今晚ここに泊めていただきたいのです。すると彼女は微笑したが、目には涙が宿っていた。暫くして、彼女は言った、家族の者をもう二、三人呼んで参りましょう。彼女は戸口に走って行き、慎子と敬子と愛子を呼び出した。三人はまた暫く彼と話した後、家族の者に彼を引き合わせた。すると多くの者が家の敷居のところに彼を出迎えて言った、お入り下さい、主のお恵みを受けた方。この家はこのような巡礼者をおもてなしするために丘の主がわざわざお建てになったものです。そこで彼はおじぎをして、後に続いて入った。彼が中に入って腰を下ろすと、人々は飲み物を与えた。また夕食の用意ができるまで、彼らのうちだれか一人、二人がとくに基督者と話して、時間を最も有意義に過ごすことに意見が一致した。そこで敬子と慎子と愛子とに話をするよう指名したので、彼らは次のように始めた。

**敬子** さあ基督者さん、私たちはあなたに好意を寄せて、この家にお迎えしたので、あなたの巡礼中に起こったことをすっかり承りたいものですね。私たちのためにもなりましょうから。

**基督者** 喜んでしましよう。あなたがた、がこんなに好意を持って下さるのはうれしいことです。

**敬子** 最初何が動機となって、巡礼の生活を始めるようになったのですか。

**基督者** 私の耳にひびく恐ろしい声のために生れ故郷から追い出されたのです。もしそこに住んでおれば、かの避けがたい滅亡が伴うというのです。

**敬子** ですが、あなたがお国を出られてこちらにお出でになったのはどういうわけでしょう。

**基督者** それは神のみ旨によることでした。私か滅亡を恐れておりましたときには、私はどこへ行ってよいか分かりませんでした。私か震えながら泣いていましたときに、はからずも一人の人がちょうど私の方へやって来ました。その名は伝道者と言うのですが、私にくぐり門の方へ行けと教えてくれました。もしそうでなかったら、私は決してそれを見出さなかったでしょう。こうして私はこちらのお宅へ真直に通ずる道に入ったのです。

**敬子** ですが、解説者さんの家の側はお通りになりませんでしたか。

**基督者** はい、そこで私はいろいろの物を見ましたが、その思い出は死ぬまでついてまわるでしょう。とりわけ三つのこと、すなわち、キリストがサタンをもつともせず恵みの業を人の胸に保っていて下さること、人間は神の慈愛をうける見込みがまったくないほどに罪を犯してしまったこと、また眠っているうちにさばきが来たと思った人の夢のことです。

【ジョン・バニヤン 天路歷程 正篇 より】

※この本は図書に置かれています。さらに読みたい方はどうぞご利用下さい。